

平成三十年度 第41回播同協研究大会

平成31年2月2日(土)13:00~16:30 播磨町中央公民館 大ホール

昨今の様々な人権のことについて話し合う播同協研究大会が実施されました。全体会では、会場が満席で立ち見が出るほどの盛況で熱気を感じる中、開会行事が実施されました。播磨町人権・同和教育研究協議会会長の藤本一彦氏の挨拶、来賓代表としてこられた播磨町長清水ひろ子氏からの祝辞に続き、人権標語・ふれあい写真の入選者等の表彰がありました。



続いて、「全ての人々が誇りを持って生きられる社会に!」～ユニバーサル社会の実現をめざして～という演題で社会法人プロップ・ステーション理事長の竹中ナミ(ニックネーム…ナミねえ)氏から講演していただきました。

講演の内容は、家庭にパソコンがまだ普及していない30年前から、障害者が働く力を身につけるためにICTを活用して自宅で仕事ができるようにプロフェッショナルの講師からスキルを身につける場を作る取り組みを紹介されました。

「働いて税金納入者になりたい!」「人に世話になるだけではなく人の役に立ちたい!」という思いの人の願いに寄り添い、行動し始めたことが素晴らしい。さらに行動することにより、様々な人とつながる。たくさんの人と一緒に活動する。お話は楽しいことが多かったのですが、そこまで至るご苦労は並大抵のことではなかったかと思われます。

家庭では、重度の障害のある45歳のお嬢さん90歳を超えるお母様を支え続ける古希(70歳)の方の話とは思えぬ明るく熱意を込めて話される姿には元気をいただきました。ありがとうございました。

15時15分頃から地域部会が同じ大ホールで行われました。野添コミセン区からは宮ノ裏自治会・野添中部自治会が発表しました。また野添県住自治会が紙上発表しました。

宮ノ裏自治会の発表は毎月の各班の公民館清掃後の話し合い活動について発表してくださいました。話し合いの中からAEDの設置が実現し、その使用方法についても緊急救命訓練を実施することができました。また「あんしんボタン」の研修を行い、その普及に際しての貴重な提案がありました。大きな井戸端会議と銘打って実施するこのいきいきフォーラムはまさしく生活感のある地域の繋がりを高める素晴らしい取組でした。

野添中部自治会は、4つの自治会が集まって作られています。それぞれの自治会の規模も実態も様々でなかなか人権を柱にした話し合い活動が実施しにくい環境にある中、行事の企画・運営の中で地域の人繋がりを深める様々な取組がありました。特にコミセン行事への積極的参加やふれあいサロン・秋祭りの運営など、自治会の中でできる取組を工夫しておられました。

その他、学園北自治会からは、歴史学・民俗学見地から差別を考えようとハンセン病や憑きものにスポットを当てた研修会が実施されました。また、本荘南自治会からは除草作業・ラジオ体操・防災研修バス旅行・ミニサロンの報告がありました。

紙上発表では、野添コミセン区からは野添県住自治会から、防犯パトロール・住宅環境改善の取組・お楽しみ会の中での人権啓発ビデオ鑑賞などの実践を発表していただきました。

いずれの自治会も現状にあった取組がなされていました。今後ともお互いがきちんと見える地域の繋がりを深めるため、できることから元気よくやっていきましょう。

この研究大会のためにご苦労・ご尽力してくださった全ての方々に感謝し、これからも毎日のであいを大切に生きていくことを決意し、結びの言葉としたいと思います。

